



映画とアコと音楽と ⑧

エクレール・お菓子放浪記

昭和初期の東京。両親を亡くしたアキオ(吉井一肇)は孤児院に入れられるが、長続きせず脱走。空腹から菓子を盗んだところを遠山刑事(遠藤憲一)に助けられるものの、こうして罪を犯したことで孤児院へは戻れなくなり刑事の世話で感化院に入れられる。アキオはここでも脱走を繰り返すが、刑事の恩と菓子パンの味が忘れられない。

戦時下の感化院ではホワイトサタンの異名を持つ指導員による仕置きがますます厳しくなるなか、保母／音楽教師の陽子先生に多く救われる。特に、教えて貰った「お菓子と娘」の歌は、アキオの心の慰め、そして生きる励みとなる。

感化院から里親フサノばあさん(いしだあゆみ)に引き取られるが、フサノばあさんの狙いはアキオに稼がせるのが目的だった。こうして映画館で働くようになったアキオに陽子先生はお菓子の作り方の本を送る。しかし、戦争は激しさを増して行き、アキオはついにフサノばあさんの元からも脱走を計る。(ガリガリに痩せた、いしだあゆみはフサノ婆さんを好演。)

こうして旅回り一座(林隆三座長)のもとに潜り込むが、東京の大空襲で世話になった遠山刑事はじめ多くの知人も、陽子先生の消息も不明のまま終戦を迎える。そして東京の上野公園では復興のど自慢大会が催される。

アコーディオンの伴奏に乗せて「お菓子と娘」を美しいボーイソプラノで歌うアキオ。会場の外にも流れるアキオの「♪お菓子の好きなパリ娘・・・」の歌声を

聞きつけ、声の元を探し求める陽子先生・・・。(この場面で1度だけ登場するアコーディオンは、戦後の復興を先取りしたような白いアコで、Jaaの松永理事長が出演)

エピローグは、何年か後の菓子屋。アキオは地方都市で娘達とお菓子屋を開いている。

この映画のロケの多くは、2010年10月から11月にかけて石巻市を中心に行われ、地元から数百名の市民がエキストラで参加するなどの協力の下で撮影されたそうで、のど自慢大会のシーン(石巻市の日和山公園)に参加した出演者も数多くの方が被災しているという。

また、渡し舟の船頭として出演した人など2名も亡くなるなど、震災前の最後の姿を記録した映画となった。

2011年は、当初3月26日に石巻で試写会をやって、4月10日から石巻で先行ロードショーをする予定だったのですが、本格公開を目の前にして東日本大震災が発生。ロケ地となった多くの地域が甚大な被害を受け、映画に出てくる「岡田劇場」も津波に流されてしまいました。

旅回り一座の座長として迫力有る演技を見せていた林隆三は、5歳から6年間仙台市で暮らしたことがあり、東日本大震災後は復興支援活動にも積極的に参加。出演料を全額寄付し、『(みんな)こんなに素晴らしいところで撮影できてうれしいね、と言っていたのがうそのようだ。応援してくれたボランティアの方の詳細や安否もわからないので辛い』と沈痛な

表情で語っていたそうです。彼の、3歳から習い始めたというピアノはプロ級の腕前だったというが、今はもう居ない。(2014年6月4日 70歳没)

今回の試写会では、いしだあゆみらがロビーで募金活動を実施。集まった寄付に加え、ロビーで発売されている前売り鑑賞券の収益の一部が義援金として被災地の宮城に送られた。

こうして震災の影響で延期され、実は上映すら危ぶまれていたこの映画は、震災の翌年、2012年5月に封切られました。

なお、この映画の原作は、西村滋(1925年4月7日-2016年5月21日)が1976年に発表した自伝的小説『お菓子放浪記』で、著者の体験を基に昭和15年から昭和21年までの感化院での生活や放浪生活などが描かれている。1976年の刊行時には中学生を対象としてその年の全国青少年読書感想文コンクールの課題図書となり、木下恵介により同タイトルでTBSテレビで連続ドラマ化されている。著者の体験はさらに

1994年『続・お菓子放浪記』

2003年『お菓子放浪記 完結編』と書き継がれた。

映画では省略や改変も多いので、これらの原作を読むことを通じて著者の実体験を通ずる反戦の叫びに直接触れることをお勧めしたい。

この映画でアキオが歌う「お菓子と娘」は、西条八十作詞／橋本国彦作曲により昭和3年10月に共益商社から出版された曲で、大正末期にパリ留学した西条八十のパリで眺めたであろう光景を表現した歌詞に、橋本国彦がお洒落なメロディーと伴奏を付けた曲です。前奏からしてアルペジオの連続で、さらに華麗な分散和音が多用されているなど、このままアコで演奏するには至難なもの。歌詞に「ボンジュール」とフランス語が入るのも、いかにも戦争の無かった時代の作品らしい。

なお、この曲は、田代も幼児期に母が口ずさんでいたことで記憶に残る懐かしい曲でもあった。

この映画の予告編が、現在も net 上に残されています。

映画『エクレール・お菓子放浪記』 予告編

<https://www.youtube.com/watch?v=RBWC98G-WkI>

終わり頃、1分8秒付近から「のど自慢大会」の様子があり、アコーディオンの音も聞くことができます。

自主上映を前提に取り組まれた映画のため、なかなか上映の機会が訪れないのは寂しいことです。

(田代和也)

このシリーズは8回で終わります。

執筆にご協力頂きました8名の皆様1年間ありがとうございました。

尚、編集部の勘違いから前回⑥「タンゴ・バー」(池田氏執筆)とあるのは、正しくは7回目でしたので、今回「エクレール・お菓子放浪記」では⑧としてあります。